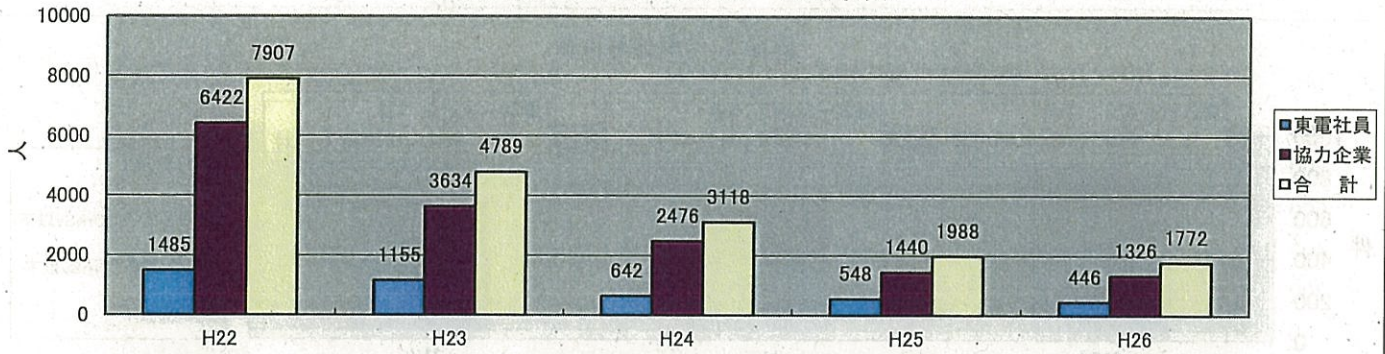


資料4-3

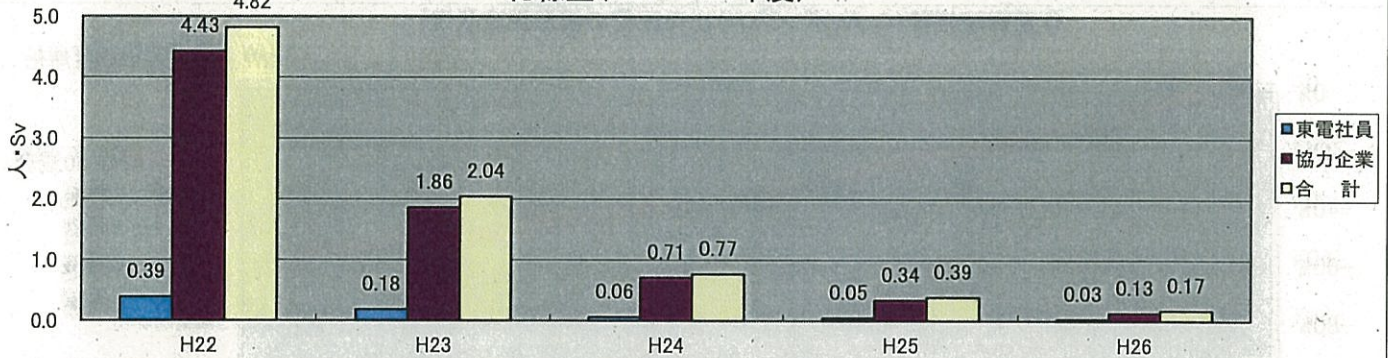
平成27年6月3日
東京電力(株)
福島第二原子力発電所

福島第二原子力発電所 放射線業務従事者数および線量状況について

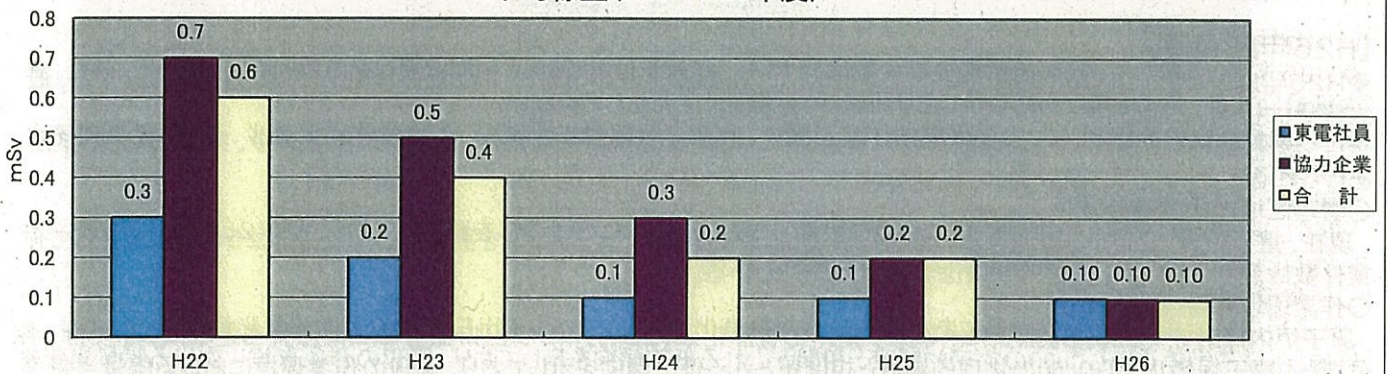
放射線業務従事者数(H21~H26年度)



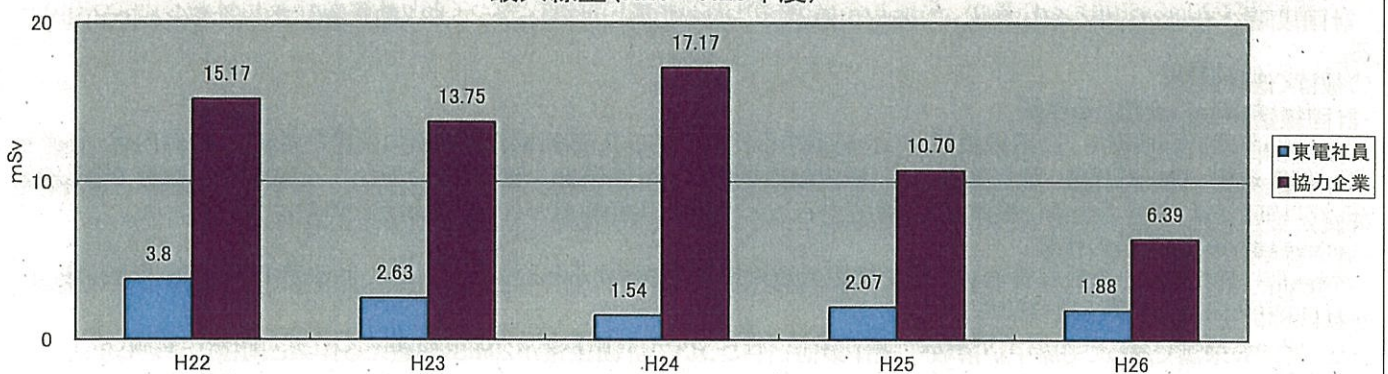
総線量(H21~H26年度)



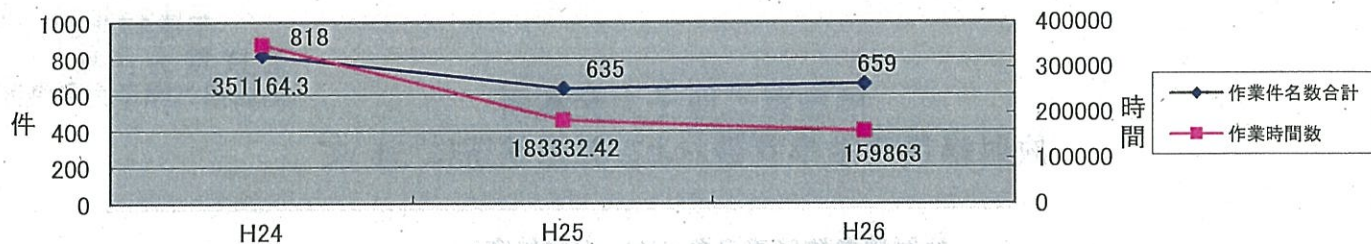
平均線量(H21~H26年度)



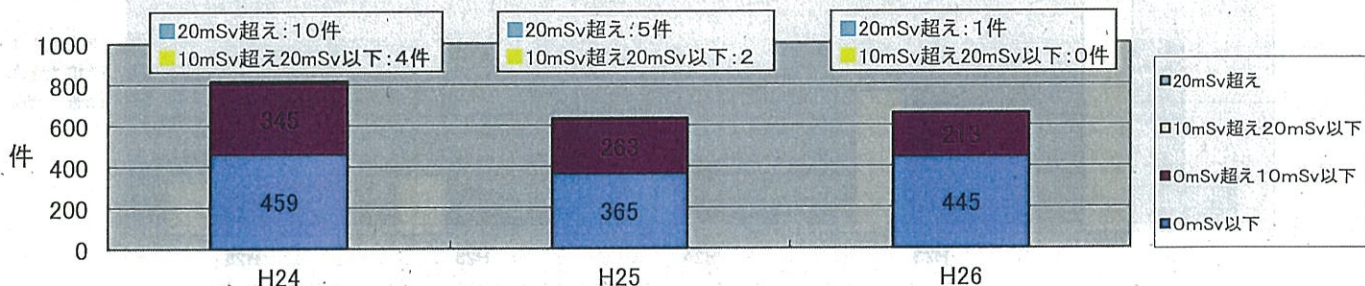
最大線量(H21~H26年度)



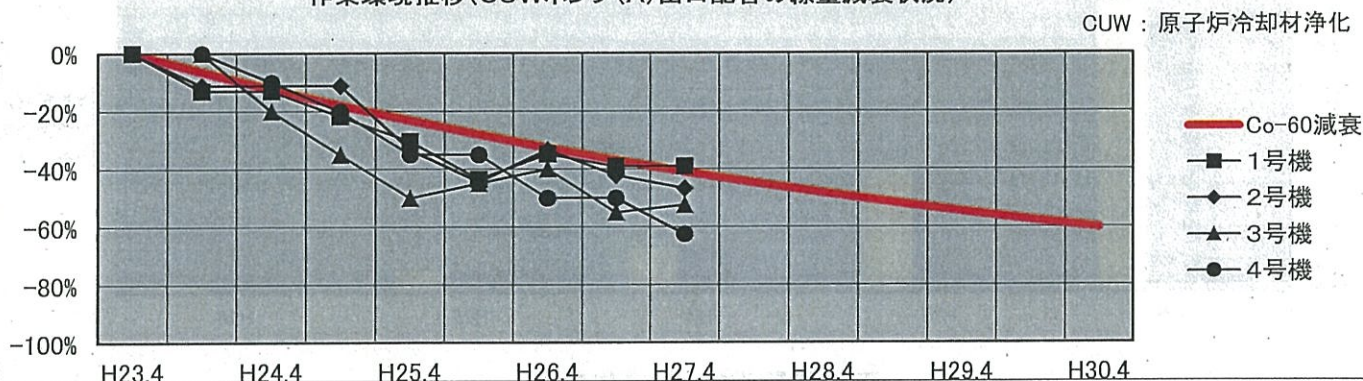
作業件名数及び作業時間推移



線量ランク毎作業件数



作業環境推移(CUWポンプ(A)出口配管の線量減衰状況)



【H26年度評価】

◆H25年度と比較して、放射線業務従事者数は約11%、総線量は約56%、平均線量は約52%減少している。また、最大線量は社員、協力企業とも減少しており問題となる被ばくは発生していない。

被ばく線量減少の要因として、管理区域内作業量減少、作業環境線量当量減少、高線量作業量減少、被ばく低減対策があげられる。

○管理区域内作業量の減少

現在、重要設備(安定した冷温停止に必要な設備)に絞り込んだメンテナンスを実施しており、平成25年度に比較して作業件数は変わらないが、作業時間数は10%の減となっている。

○作業環境線量当量の減少

原子炉内放射線量と密接な関係にある原子炉冷却材浄化系(CUW)ポンプ出口配管の表面線量当量率については、各号機とも原子炉停止からCo60の物理的減衰と相関がとれる低下傾向を示しており、周辺の作業環境における線量当量率も下がってきている。

○高線量作業の減少

計画段階で20mSvを超える作業が、平成25年度5件からH26年度には2件となっており高線量作業自体減少となっている。

○被ばく低減対策

・計画線量20mSvを超える作業

平成26年度計画段階で、計画線量20mSvを超過する作業2件に対し事前検討会を協力企業と実施し、作業内容、作業手順、作業環境、日計画線量、線量低減対策(推定効果を含む)などを詳細に確認するとともに、追加または改善できる線量低減対策があれば協力企業に提案、指導助言を行った。結果、実績線量が20mSvを超えた作業は1件となった。

・計画線量20mSv未満の作業

作業前に提出される放射線管理計画書で線量低減対策等を確認するとともに、追加または改善できる線量低減対策があれば協力企業に提案、指導助言を行った。

また、20mSv未満であっても原子炉解放一連作業他7件について計画線量が20mSvを超える作業と同様に管理した。

・その他

日々の線量実績、日計画線量に対する超過者の有無、作業の進捗に応じた予想線量に対する実績、線量低減対策の実施状況の実際を確認し、改善すべき内容があれば作業所管箇所及び協力企業と協議した。